



お客様の夢を希望へ  
希望を製品へそして進化へ。

あいさつ  
会社の歳時記  
技術の時間  
ちょっとコーヒータイム

Vol.31

(有)今泉大伸



〒441-3131  
愛知県豊橋市大岩町字小山塚6 2 - 2 8  
:0532-41-8282  
FAX:0532-41-8297  
E-mail info@imaizumidaishin.co.jp  
<http://www.imaizumidaishin.co.jp>

## あいさつ

鬱陶しい季節になりました。その分晴れ間の風に揺れる若葉がより一層さわやかに感じますね！

当社はと申しますと、納品以外にもX P 終了への対応(うろたえる従業員)、ISOの再審査などで社内の大掃除(大さわぎ)！などちょっとバタバタしました。

それで結構大きなものを思い切って処分して新しくできたスペースがちょっと便利な作業場に。もともと片づけはとても苦手なんですけれど、だからより一層さわやかな達成感が...！？(笑)

初回のISO審査の時にかなり要らないものを処分したので、その時に比べればそりゃもう大分楽ではありましたが、それでも一年以上経つといろいろな新しいものが来ていたり、移動していたり...。やっぱり大変なことになりますね。

苦労してやっと片づけた後はいつも「よし、この状態をキープしつつづければ！」って思うんですけれどそれが結構ムズカシイ...

そこで色々な片づけノウハウ的なものをかき集めてみると、「片付けの順序は物を捨ててから、いるものは定位置を作ってあげて整理整頓」これが基本みたいです。



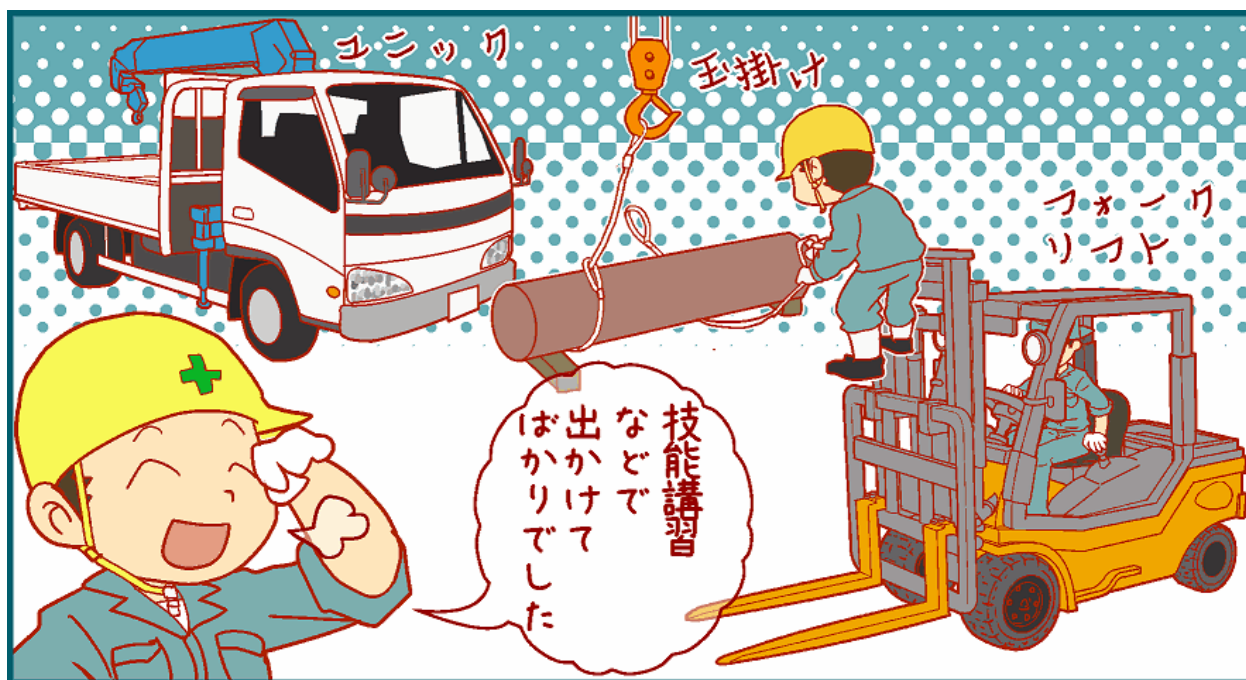
違いは捨てるものの優先順位(仕事場ならもちろん必要・不必要、女性の服とかオタク気質な人のコレクションならいるもの、要らないものというより、これは本当にトキメクものなのか、それは持っているものの中でどのくらいの順位なのか)、処分に罪悪感を感じるものはその時の気の持ち方やリサイクルショップや知人に譲るなど処分の仕方、作業効率や動線を意識した家具配置とか整理整頓にあの100均グッズやあのアイテムが便利！という片づけテクニック、あとは本や洋服の新しいものを一つ買うときはなにかひとつ捨てる、どこか場所を決めてローテーションを組み毎日5分だけその部分をサッと片づける、などの片づけた後の小さいルール。

うーん、なるほどなあっておもいます。なかなか維持って大変ですけどちょっとずつ取り入れられたらなあ。

## 会社の歳時記

4月、Windows XPのサービス終了に伴って、システムの大きな変更・銀行決済用のPCの修正や入れ換えなどがあり、また5月には仕事も忙しく油圧システムの出荷や油圧シリンダーの製作、ほかにも玉掛けや小型移動クレーンの技能講習やその他のことへの対応などを行いました。

今回の技能講習に関しましては、さまざまな現場に行った時にフォークリフトやユニックなどの作業を行う際に、技能証の提出を求められるほど厳しくなっているなあと実感したためです。



また事務処理の関係としましては専門家にアドバイスを頂きまして、問題点とともに手直しが要求されました。そのような理由で4月、5月と忙しくさせて頂いておりました次第です。さて6月に入り、ホームページのリニューアルの検討も現在視野に入れております。それに向けてさまざまな処理をしているところです。

これから暑くなっていくので無理はしないようにとは考えております。皆様もこれからの気温の上昇に負けないようお体に気を付けてください！

## 「技術も個人戦とチーム戦があり、チーム戦が大切になっている」

### 技術の時間

技術は個人が力量を上げる場合と、チームで力量を上げる場合があります。

当然個人の力量が上がれば成果も上がるわけなのですが、一人が行えることには限界もありますし、やっぱり効率にせよ苦手な事にせよ人に任せの方がよい場面もあります。また人が増えることによって他からの視点で新しい気付きがあったりするのもいいですね。

やはり、共にやっていくという事も必要になります。その時大切と思うのは『**上から目線で見るとはなくて、失敗してもその失敗は一人前にするには必要なことなんだと思う事**』なのかなって思います。

チーム戦をすると『**自分が自分が**』という我を捨てるべき時に捨てるのが実はとても難しいということも身に染みて解ります。

チーム戦に移行してみると、それぞれの力量にバラつきがあったり、連携がとれなかったりで、一端は成果が下がることと思います。

ですが、長い目で見た時には、必ずやなにかが上がっている事でしょう。そう信じて、まあ時には「現代の子は使えない！」などと思う事もあるのかもしれませんが、どこまで担当者が忍耐できるのかが今後のゲームのような気がします。



- ・発売日：2014年3月
- ・著者：池井戸 潤
- ・出版社：講談社

この後、「ちょっとコーヒータイム」で『ルーズヴェルト・ゲーム』のことに触れています。これの原作(池井戸 潤著)を読んでいるのです。

野球の試合と同じです。チームというものは『**大砲ばかりではチームは成り立たない**』。その人の良い所も含めて、チームを作らないと！

中小企業は、大企業のように人材が多いわけではないのですから、その人を長い目で見られることが特に必要に思います。

時には『**まーいいか!**』、そのような気持ちでいかないと難しい気がします。

チーム戦で大切なのはキャプテン『**リーダー**』がカリカリしないこと。心を落ち着けることがなによりチーム力を高めるのではないのでしょうか。

『**人は悪い所ばかりではないですから**』！！





今当社の地元である豊橋市市民で話題になっているドラマがあります。

タイトルは「**ルーズヴェルト・ゲーム**」。

池井戸潤著の小説を原作とし、あの「半沢尚樹」のスタッフが再結成して製作する、4月からTBS日曜劇場 日曜 夜9時で現在放映中のテレビドラマです。

なぜ豊橋市民で話題なのかというと、撮影場所がその豊橋市内で行われておりまして、エキストラも地元民、毎回放送に一回はひっそり入っている地元民ならわかるような豊橋ネタが仕込まれています(ここが地味にうれしいんです)。

撮影場所も豊橋の施設で、豊橋市民球場(野球の描写があります)市内の会社、市内の飲食店。食べているものが「豊橋カレーうどん」だったりします(豊橋の観光協会が地域おこしで提案したご当地グルメ)そして愛知県豊明市出身の元プロ野球の投手 工藤公康さんの長男「工藤阿須加」を起用。

自分の見たことがある場所やエキストラに紛れているかもしれない知人、そんなのが毎週ドラマでハッとできるなんて、これミーハー心が刺激されてワクワクしてしまいます。

もちろん、それ抜きでも面白いんですよ!

ざっと概要を説明しますね。

原作はリーマン・ショックの前後の不景氣時に読んで元気になってもらう小説を書こうと思い執筆されたもの。

世界的な不況と大手ライバル企業のミツワ電気の攻勢を受け、青息吐息の中堅電子部品メーカー「青島製作所」の生き残りと、かつては名門チームであったが現在はエース不在がつづき、社内ではリストラがはじまり存続を疑問視されはじめた社会人野球部の存亡を賭けた攻防を描いた作品です。

特定の主人公がいない構成で、野球部のマネージャー、ピッチャー、製造ラインの責任者など、いろんな視点で作られています。

お時間が合いましたらぜひ見てみてください!

